令和６年度奄美市総合教育会議資料

奄美市教育委員会

不登校対策について

Ⅰ　第１回奄美市総合教育会議より

１　学校や管理職，職員に対する研修について（二学期）

⑴　９月の市定例校長研修会で「不登校対策について」の協議を行った。

自校の「不登校対策について」の取組を振り返り，他校の取組を参考にして協議することで，改めて自校の取組を練り直すことを目的として行った。

また，「多様な学びの場，居場所の確保について」の説明を行い，「学校以外の学びの場」の重要性について確認し，積極的に活用していけるように依頼した。

⑵　11月の第２回奄美市生徒指導主任等連絡協議会で，ＳＳＷ統括コーディネーターを中心に「ＳＳＷの活用や連携，課題」について講話を行う。

その際，分科会において各中学校区を中心とした情報交換会や意見交換に各学校に配置されたＳＳＷも参加する。

２　プロジェクトチームについて

不登校対策についての取組状況を整理し，正面から向き合うために，令和７年度より「あまみ不登校対策プロジェクト～あまみの子どもたちを光に～」を立ち上げ，実行していく（下段参照）。

この中で，校内，校外のケース会議を充実させたり，あまみ不登校対策推進協議会（Ｐ．４参照）を開催したりすることで，関係機関と連携し，個別に対応していく機会とする。

３　モデル地区について

地域と学校のつながりの強化を図るため，総合的な不登校対策を実施する中で「心の健康観察」（P．３参照）を活用し，児童生徒のメンタルヘルスの悪化やＳＯＳを早期に把握するためのモデル実施を行っていく。

Ⅱ　あまみ不登校対策プロジェクト～あまみの子どもたちを光に～

１　魅力ある学校づくりについて

子供たちが安心して楽しく通える魅力ある学校をつくっていき，不登校の未然防止につなげていく。

⑴　教職員による居場所づくり【安心安全な場所づくり】

教職員が，児童生徒にとって安心できる場所，自己存在感や充実感を感じられる場所をつくり出す。

①　魅力ある授業づくり	②　温かな学級づくり
③　児童生徒との絆づくり	④　保護者との信頼づくり

(2) 児童生徒による絆づくり【活動の場や機会の提供】

児童生徒が，主体的・共同的な活動を通して，「絆」を感じ取り，紡いでいくために，教職員が場や機会をつくり出す。

① 学級活動	② 生徒会（児童会）活動
③ クラブ活動・部活動	④ 学校行事　など

(3) 「あまみっ子」すこやかプログラム研修会の実施

ア 構成的グループエンカウンターの充実

集団学習体験を通して，自己発見による行動の変容と人間的な自己成長をねらい，本音と本音の交流や感情交流ができる親密な人間関係づくりを援助するための手法となる。学習活動で取り扱う課題（エクササイズ）には，自己理解，他者理解，自己主張，自己受容，信頼体験，感受性の促進の６つのねらいが組み込まれている。

市では年１回，講師をお招きして構成的グループエンカウンターの研修を実施している。

イ 令和６年度実施状況

○ 日　時　　令和６年７月25日（木）　13:15～16:30

○ 内　容　　「仲間づくり（構成的グループ・エンカウンター）の演習」

○ 参加数　　35 人参加

「本音寄り添い解決策へ」

カウンセリング手法の理解深める

奄美市教委 教職員向け研修会

奄美市教育委員会は25日、同市名瀬の奄美川商ホールで教職員向けの研修会を開いた。市内の学校長や養護教諭、教諭ら35人が参加。日本教育カウンセラー協会鹿児島県支部から講師を招き、学校におけるカウンセリング手法の「構成的グループエンカウンター」について理解を深めた。

研修会は奄美市教育委員会が作成した「あまみっ子・すこやかプログラム」の一環で年一回実施している。構成的グループエンカウンターとは、心理学のカウンセリングの一つで、集団学習体験を通して、自己発見による行動の変容と人間的な自己成長を狙い、本音と本音の交流や感情交流ができる親密な人間関係づくりを援助するための手法。1960年代に生まれ、近年はビジネスシーンでも応用されている。

研修会では日本教育カウンセラー協会鹿児島県支部代表の石塚勝郎氏（87）が講師を担当。構成的グループエンカウンターについて石塚代表は、①子どもたちの居場所づくりになる②短時間であたたかな人間関係が構築できる③教師を育て、教師を援助する　などの利点を説明。カウンセリングにあたり、年齢、性別、居住などは関係ない。相手に本音を言いやすい環境づくりが重要だと語った。

後半では環境づくりの例として、ペンをタッチしてあいさつ、じゃんけんの手の甲たたきなどエクササイズ（課題）があり、参加した教諭らは２人一組や複数のグループでエクササイズに挑戦し、座学と実践を通してカウンセリングの知識と技術を深めた。

研修会に参加した名瀬中の宮下正也教諭（35）は「エクササイズを通して進路や受験に悩んでいる生徒の本音に寄り添い、解決策を見いだせたら」と話した。

石塚代表は「大人が笑顔で楽しまなければ子どもたちも楽しめない。今回の経験を糧にして少しでもよりよい学校環境づくりに貢献できれば」と話した。

構成的グループエンカウンターについて説明する石塚勝郎支部代表（25日、奄美市名瀬の奄美川商ホール）

奄美新聞（令和６年７月 26 日（金）掲載）※　掲載許可済

ウ　資料の活用方法

「学校共有」フォルダ内に「あまみっ子すこやかプログラム」のフォルダを作成し，「事前研修資料」「理論」「指導計画」「ワークシート」等を共有している。

各学校で作成，使用した資料も共有できるようにしている。

2　早期発見・早期対応について

⑴　アンケートの実施

年５回以上の各種アンケート（学校楽しぃーと，ＳＮＳチェックシート等）による実態把握，分析を行うことで児童生徒の些細な変化を察知する。

⑵　研修等の充実

ア　管理職，生徒指導主任等の研修

不登校対策や教育相談等に関する講話や研究協議を充実する。

イ　カウンセリングマインド研修

児童生徒への理解とＳＯＳや些細な変化に気付くための全教職員を対象とした研修の充実を図る。

ウ　児童生徒理解・支援シートの作成と活用の研修（新規）

不登校の傾向がある児童生徒の情報を共有するための不登校対策（チーム学校）用児童生徒理解カード（支援シート）の活用方法や，短期目標や長期目標を設定し生かしていくための研修の充実を図る。

学校職員，ＳＳＷ，ＳＣ，不登校児童生徒に係る機関等を中心に行う。

エ　心の健康観察活用の研修（新規）

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLO プラン）」や「こどもの自殺対策緊急強化プラン」を踏まえ，全ての学校において，１人１台端末等を活用した「心の健康観察」を実施し，児童生徒のメンタルヘルスの悪化やＳＯＳを早期に把握し，ＳＣやＳＳＷ，養護教諭等とも把握した情報を共有しつつ，チームで支援を実施する体制構築を目指す。

⑷　場面別観察ポイントの充実

生徒指導ハンドブック（奄美市）の『⑵　不登校への対応「コ　子どもや保護者へ寄り添うポイント」』を参考に児童生徒の心の動きに気付くことに努める。

3　関係機関と連携した支援について

⑴　ケース会議等の実施

市や学校，関係機関との意見交換の場の設定など，連携協力体制を構築していく。

ア　校内，校外のケース会議を充実する（管理職，担任，不登校担当職員，養護教諭，教育相談担当，学年主任，ＳＣ，ＳＳＷ等が参加し，支援シートを活用する）。

イ　児童相談所，市役所関係課職員等との情報交換・連携

ウ　児童相談員，家庭相談員，児童民生員等との情報交換・連携

(2) 不登校相談の実施

ア 対象者

多様な学びの場を探されている保護者及びその児童生徒

イ 内容等

・ ＳＳＷ，教育相談員による個別相談の受付（各学校，市役所，支所，公民館等）

・ ＳＣによるカウンセリングの受付（各学校，市役所）

(3) 特認校へのＳＳＷの配置（新規）

(4) フリースクール等民間団体からの事業・活動の説明

ア 教職を対象とした研修会の実施

イ 多様な学びの場を探されている保護者及びその児童生徒への説明

(5) あまみ不登校対策推進協議会（新規）

教育や福祉等の関係機関，地域住民や保護者等の関係機関が参画し，不登校児童生徒の現状の共有や可能な支援等の検討，今後の方向性を協議する。

ア 実施時期

各学期１回程度

イ 参加者

市役所関係課職員，ＳＣ，ＳＳＷ，主任児童委員等

ウ 内容等

教育や福祉等の関係機関，ＳＣやＳＳＷ等の関係者が参画し，不登校児童生徒の現状の共有や可能な支援等の検討，今後の方向性を協議する。

Ⅲ 今後の課題

1 児童生徒理解・支援シートの作成と活用，心の健康観察活用の研修等，未然防止に向けた研修を図るための研修の充実

2 生徒指導ハンドブック（奄美市）の改訂

3 ＳＳＷの人的確保

郷土教育について

Ⅰ　ねらい

郷土芸能や伝統文化を体験する活動や先人の業績や生き方について学ぶ活動などの充実を図り，ふるさと奄美の魅力を語れる人材の育成に努める。

1　地域の郷土的風土，人材，郷土素材の積極的な活用

(1)　郷土の魅力について調べ，発表し合うなどの，郷土に根ざした教育活動の一層の充実

(2)　地域と学校がより連携し，地域に根ざした特色ある郷土教育の推進

(3)　奄美の祖国復帰の経緯や時代の背景を考えさせる機会の充実

2　ふるさと奄美の地理・歴史，伝統，文化について理解を深めさせる取組の充実

(1)　大規模校から小規模校への体験的な短期留学の実施

(2)　自分の住む地以外の伝統文化や結の精神など，その土地のすばらしさを学ぶ取組の充実

3　奄美群島日本復帰に関する学習への取組について

(1)　復帰運動に関する学習の充実

(2)　復帰月間（12 月）の取組の充実

講話（講師招聘，各種集会）や復帰関連の歌への取組，掲示物の充実

Ⅱ　郷土教育の定義

郷土の自然や文化，産業，人材などを教材として，郷土への愛情や理解を育むことを目的とした教育のことである。

Ⅲ　活動内容

1　「あまみっ子」ふるさと学習

(1)　「あまみっ子」ふるさと学習のねらい

ア　奄美の自然や文化（伝承，伝統，方言，産業），歴史などを知り，郷土への理解を深める。

イ　奄美への愛情や誇りをもち，そのよさを守り伝えようとする態度を育てる。

ウ　奄美の歴史や先人の生き方を堂々と話すことができる子どもを育てる。

(2)　「あまみっ子」ふるさと学習の定義

奄美の自然や文化（伝承，伝統，方言，産業），歴史などについて，総合的な学習の時間及び道徳等を中心に，各学校でねらいやテーマを位置付けて学習することで，郷土理解を深め，よりよい生き方を目指す子どもを育成すること。

(3)　各学校の取組

学校名	取組内容
名瀬小学校	地域の人材を活用した特色ある教育の実践として奄美群島日本復帰運動についての講話を行った。 また，毎朝，断食悲願の詩の朗読を行った。
奄美小学校	新民謡や八月踊りの体験・発表や泥染めの体験や奄美の動植物の生態や現状・課題について調べプレゼンテーションにまとめて発表をした。

伊津部小学校	奄美群島日本復帰シンポジウム（１・２年は学級活動）や島唄音楽鑑賞会（唄者の島唄ライブ）を行った。
朝日小学校	奄美群島日本復帰 70 周年記念講話やハンセン病について学ぶ講話を行った。
小宿小学校	野生生物保護センターに行き，奄美の野生生物について学習したり，クラブ活動で，三味線クラブを設立し，三味線に触れ，演奏を体験する活動を行ったりした。
知根小学校	地域ボランティアによるシーカヤック体験活動や海遊び（有免海岸）やしめ飾り作りを地域の専門業者とボランティアによる指導で行った。
大川小中学校	小湊八月踊り保存会を講師に招き，八月踊りを練習し，運動会で発表した。また，地域の講師から学ぶ「島唄・シマグチ」の実施したりした。
小湊小学校	稲作体験活動やフィールドワーク（地域の動植物調べ）や海岸清掃活動を行っている。
崎原小中学校	島唄・シマグチ伝承活動（小中）や炭作り活動（小中），郷土料理（小），はあごろ太鼓の演奏（小中）を行っている。
芦花部小中学校	「米作り」体験学習（苗作り，田植え，稲刈り，餅つき，調理等）や奄美の自然について講師をお招きし，奄美の自然や文化にまつわる講話を聞き見識を深めた。
住用小学校	カヌー体験活動（マングローブに暮らす生き物観察）やリュウキュウアユ保護活動（観察，産卵地整地）を希少植物に関する学習・フィールドワークを行っている。
東城小中学校	小学校では，郷土料理つくり，小学校のクラブ活動で，ふくらかんの郷土料理に親しんだ。中学校の自然体験学習では，マングローブ探検（カヌー体験）を郷土（自然等）についての講話を行った。
赤木名小学校	八月踊りの唄や踊り，三味線の演奏，ちぢんの叩き方を教えていただいた。赤木名観音堂・さんだまけまけ，浜千鳥等の唄や踊り，三味線・ちぢんを教わりながら地域の方々と楽しく交流することができた。
笠利小学校	例年の取組に加え，かごしま国体における地方事情視察（奄美パーク）にて，承子女王殿下に島唄を披露する機会をいただいた。大笠利わらぶぇ島唄クラブの指導者に依頼し，全校児童で練習に取り組んだ。
節田小学校	アマンディー太鼓演奏（３～６年），島唄・シマグチ（全児童），八月踊り（全児童），節田マンカイの体験（全児童）を行った。
緑が丘小学校	サトウキビの苗植え，除草作業（５・６年），タイモの苗植え，除草作業（３年），大島特別支援学校との交流学習（５・６年）を行った。
宇宿小学校	食料として使用されたソテツの実（ナリ）を使った郷土料理調理実習を５・６年生が行った。味の郷「かさり」から講師を招き，「ナリガイ」や「豚みそ」を料理・試食し，当時の食料事情について学ぶことができた。
手花部小学校	三線や島唄など，日頃の練習を積み重ね，その成果を大運動会や

	学習発表会で披露できた。
屋仁小学校	さとうきびの収穫体験活動と黒糖づくりやさつまいもの苗植え・除草・収穫活動，ウミガメの卵保護に向けた海岸清掃活動を行った。
佐仁小学校	オオゴマダラを中心とした蝶の観察活動や種子から育てる飼育・観察活動や校区内にある昔の紬工場巡りや大島紬村での泥染活動を行った。
名瀬中学校	令和５年度の文化祭では，画家である田中一村についての劇「アダンの海辺」を行い，学期ごとに緑化活動としてプランターづくりを行った。
金久中学校	島学習や奄美群島日本復帰 70 周年記念特別講話，奄美の歴史，復帰運動などの人権学習を行った。
朝日中学校	奄美の歴史や復帰前後の島の様子，地域の福祉の現状などを調べ，学習発表会において劇やプレゼンなどで発表した。
小宿中学校	11 月に「奄美フィールドワーク」を実施し，ガイドの説明を受けながら，金作原原生林を散策することを通して郷土の自然を学んだ。10 月に「ウォークラリー」を実施した。奄美の観光業について，酒造会社や史跡を直接訪問することを通して，学びを深めた。
住用中学校	ふれあい体験学習（奄美博物館・野生動物保護センター訪問）や環境保護活動講演「奄美の自然と環境保護～もっと知ろう！奄美の自然」を行った。
市中学校	毎週火曜日を中心に地域人材を講師として招聘し，方言での日常会話の推進，シマグチ劇での台詞の練習，方言カルタ大会，方言クイズの実施，島唄（三味線）への取組を行った。
赤木名中学校	大島紬着付体験学習を第１学年で実施したり，八月踊りを学び，体育大会で披露したりした。
笠利中学校	総合的な学習の時間「かさり学」に島唄について学び，最終的にシマグチを用いた島唄も自作した。

(4) 取組例（奄美市立住用小学校）

ア 自然（守る・生かす）

- カヌー体験活動（マングローブに暮らす生き物観察）
- リュウキュウアユ保護活動（観察，産卵地整地）
- 希少植物に関する学習・フィールドワーク
- 奄美の森の学習・樹名板作り
- タンカン狩り及び選別・箱詰め体験
- 小中合同防災教室（奄美豪雨災害の日）

イ 人（知る・ふれ合う）

- 復帰運動体験者による奄美群島日本復帰 70 周年記念講話
- チアダンス
- 読書祭りにおける読み聞かせ
- いのちの授業（大和診療所）
- 持久走大会

ウ 伝統（学ぶ・伝える）

カヌー体験

タンカン狩り

記念講話

・　エイサー
・　八月踊り
・　竿踊り
・　島唄の練習（年６回）

花の配付

エ　総合的な学習の時間との関連
・　「花で住用を元気にしようプロジェクト」での日々の緑化活動や事業所や集落へのプランター配布
・　シイタケ駒打ち体験と栽培活動
・　フラワーフェスティバル
・　地域の方を招き，全児童で育てた花とシイタケを活用した学習のまとめ

⑸　成果と課題

ア　成果

地域の素材や人材を活用することで，学習内容（郷土・伝統芸能・日本復帰，自然・環境，いのち・健康等）をより身近に感じることができ，郷土愛が深まるとともに主体的な学習を行うことができた。

イ　課題

教科との関連を明確にし，学習効果を高めるとともに，教科の指導計画に位置付けようにする。

2　ふるさと体験留学について

⑴　ふるさと体験留学のねらい

ア　本事業への参加を希望する大規模校等に在籍する児童に，市内小規模校の児童との交流を通して「ふるさとの豊かな自然やふるさとの心」に触れさせる。

イ　本事業を通して，小規模校及びその地域の活性化を図る。

⑵　定義

市街地の学校から市内小規模校への児童生徒を留学させ，様々な交流を通して，「ふるさとの心」に触れさせる体験留学をすること。

⑶　対象者

小学校３年生以上（原則としてこれまで参加のない児童）今年度は，中学１・２年生を対象にした。

⑷　実施校及び実施期間

・　知根小学校　　６月11日（火）～６月13日（木）
・　小湊小学校　　６月10日（月）～６月14日（金）
・　崎原小学校　　６月25日（火）～６月27日（木）
・　芦花部小学校　６月21日（金）
・　住用小学校　　６月３日（月）～６月８日（土）
・　屋仁小学校　　６月17日（月）～６月20日（木）
・　佐仁小学校　　６月17日（月）～６月21日（金）
・　市中学校　　７月３日（水）～７月５日（金）

(5) 期間中の主な行事（合計参加人数 46 人）

学校名	行　　事	参加人数
知根小学校	スケッチ大会，海での遊び，全校給食	6人
小湊小学校	小湊海岸での舟こぎ体験，島唄体験，校区内のフィールドワーク，海岸清掃，貝殻拾い，キーホルダー作り，お別れ会	9人
崎原小学校	タナガ捕り，自然観察学習，複式授業体験	12人
芦花部小学校	芦花部の自然体験活動（自然体験・講話）	7人
住用小学校	カヌー体験活動，プール開き	5人
屋仁小学校	まーじんゆらおうデー（三味線），カヌー体験，食に関する指導	2人
佐仁小学校	食草オリエンテーリング，老人クラブとの交流会（グランドゴルフ大会），佐仁太鼓体験，租税教室（5・6年）	4人
市中学校	夏のふるさと学舎（1日遠足），ゆらおうタイム（学校レクリエーション）	1人

(6) 成果と課題

ア　成果

・　留学生を受け入れることで，学校や地域が活性化された。

・　交流を通して，小規模校の児童生徒の人間関係が新たに広がった。

イ　課題

どの学校も受入れ家庭の確保が難しくなってきている。受入校の枠を広げるなど，工夫が必要である。

3　奄美群島日本復帰に関する学習への取組

市教育委員会は，例年，奄美群島日本復帰記に関するの歌や詩，講話等の取組を各小・中学校で実施するよう指導している。令和5年12月の調査では，市内小中学校の全ての学校が日本復帰運動の取組を実施した。（実施率100％）

(1) 奄美群島日本復帰に関する学習への取組のねらい

奄美群島日本復帰に関する歴史的経緯を踏まえながら，決して風化させることなく，次代を担う子供たちへ継承していくこと。

(2) 各学校の取組内容（令和5年度）

学校名	取組内容
名瀬小学校	校内に復帰運動についての資料を掲示した。
奄美小学校	奄美群島日本復帰に関するテーマを決め，調べ学習を行い，学習発表会でプレゼンや劇の発表を行った。（6年生）
伊津部小学校	地域の方で，当時小学生だった方をシンポジストとしてお招きし，教頭がコーディネーターとなり，シンポジウムを行った。
朝日小学校	一人一授業の指導内容として，奄美群島日本復帰の歴史を取り上げた。
小宿小学校	復帰の歌の斉唱を行った。
知根小学校	復帰の歌の斉唱や日本復帰の詩の朗読を行った。
大川小中学校	復帰の歌の斉唱や日本復帰の詩の朗読，元小学校教諭と奄美博物館元館長から日本復帰の講話があった。

小湊小学校	元小学校教諭から日本復帰の講話があった。
崎原小中学校	復帰の歌の斉唱や市地域女性団体連絡協議会顧問から日本復帰の講話があった。
芦花部小中学校	学習発表会の場を活用して，泉芳朗の詩「島」の群読を全校で行った。
住用小学校	学習発表会における「復帰劇」発表
東城小中学校	元奄美博物館館長を招いて，小中学生合同で講話を行った。
赤木名小学校	復帰の歌の斉唱や日本復帰の詩の朗読，校長から日本復帰の講話があった。
笠利小学校	復帰の歌の斉唱や日本復帰の詩の朗読，奄美郷土研究会の講師から日本復帰の講話があった。
節田小学校	復帰の歌の斉唱や大和村教育長から日本復帰の講話があった。
緑が丘小学校	復帰の歌の斉唱や奄美郷土研究会の講師から日本復帰の講話があった。
宇宿小学校	復帰の歌の斉唱を行った。
手花部小学校	校長から日本復帰の講話があった。
屋仁小学校	復帰の歌の斉唱や日本復帰の詩の朗読，地域の方から日本復帰の講話があった。
佐仁小学校	復帰の歌の斉唱や地域住民で元笠利町議員から日本復帰の講話があった。
名瀬中学校	奄美郷土研究会の講師から日本復帰の講話を行った。
金久中学校	北方領土の元島民後継者をお招きして，奄美から北方領土問題を考える機会として実施した。
朝日中学校	復帰の歌の斉唱や日本復帰の詩の朗読，生徒会が朝日中１年生を対象に日本復帰の講話を行った。
小宿中学校	２年生がおがみ山，奄美博物館でフィールドワークを行った。
住用中学校	奄美市立奄美博物館を「ふれあい体験学習」として訪れ，奄美群島日本復帰 70 周年記念企画展「朝は空けたり 1953」を観覧した。
市中学校	奄美群島日本復帰 70 周年記念に係る新聞記事の掲示した。
赤木名中学校	12 月の人権週間と絡め，奄美群島日本復帰の題材を，各学年の授業参観（道徳）で取り組んだ。
笠利中学校	復帰の歌の斉唱や地域の講師から日本復帰の講話があった。

(3) 成果と課題

ア 成果

・ 奄美群島日本復帰に関する学習の取組は，全ての学校で行われ，実施率 100％であった。

・ 復帰運動の歌の斉唱や講話の実施がなされ，日本復帰運動への学びを深めることができた。

イ 課題

・ 今後は，復帰運動の詩の朗読について，多くの各学校で実施できるようにする必要がある。

・ シマグチの伝承者が減り，指導が難しくなってきている。